

元ユニセフ東京事務所広報官

シエラレオネレポート / 澤良世さん講演会より.....2、3

「ブラッド・ダイヤモンドの国シエラレオネ」



元子ども兵やブッシュワイフの被害にあった年齢層の子どもたちの表情には精神的傷跡が残るが、より年少の子どもたちの表情は、ようやく訪れた平和の中で明るく輝く笑顔がある。 写真は講演会のスライドより（澤さん提供）

世界の子どもたちのために

Wish

ユニセフ兵庫ニュース

Vol.22 (2007年秋)

- ユニセフ交流ひ・ろ・ば.....3
- 加藤直邦さん講演会.....4
- 「自然と動物、人間のための平和な地球」
- ボランティアチーム紹介.....4
- 西宮チーム「連絡帳が心をつなぐ」
- トピックス(2007年7月~9月)...4、5
- お知らせ.....6

2007年9月8日(土)、コ-プこうべ生活文化センター-第3会議室で、澤良世さんのシエラレオネ講演会を開催。参加者 約60人が熱心に聴き入った。

シエラレオネは1961年にイギリスから独立。国名はポルトガル語で「ライオン山地」の意味。兵庫県支部では2003年、一色昭宏さん(毎日新聞社)による報告会を開催。内戦中に誘拐され従軍させられた子ども兵の事、民間人に対する手足切断の残虐行為などの話が生々しく印象に残

りますが、あれから4年が経過した今、現在のシエラレオネの人々、子どもたちはどうしているのでしょうか?

シエラレオネでは2002年の内戦終結後2度目、国連平和維持部隊撤退後初の政府独力での大統領・議会選挙が8月11日に実施され、講演会当日の9月8日は奇

しくも大統領選の決選投票の実施日でした。

元ユニセフ東京事務所広報官の澤良世さんは、9月初めにシエラレオネから帰国されたばかりで、まさしく今現在の状況を一般の人々の暮らしぶりもまじえながら、政治・社会問題まで、さまざまな角度から

「ブラッド・ダイヤモンドの国シエラレオネ」 ～アフリカの紛争と平和に向けた前進

シエラレオネの厳しい現実

世界人口約65億人の11%がサハラ以南のアフリカに暮らし、貧困、保健・栄養、医療、エイズ、教育等多数の問題がその地域に集中している。ユニセフの地域別事業支出ではサハラ以南をアフリカと呼び、東・南アフリカ24%、西・北アフリカ20%と大きい。中でも特に厳しいシエラレオネの現状を基礎資料からの問題提起で澤さんのお話は始まった。80%という失業率、3カ月程度の職業訓練が就職に結びつかないという問題、きちんとした医療が受けられない問題、教育は無償でもそれ以前の生活に追われ、収入のために児童労働に従事する子どもの問題、名門校にも安全な飲み水や教科書が不足している現実、汚職が多く教員報酬や教科書の横流しが多く行われている事等々、問題は深く現実の重さを感じさせる。

未来を信じる

選挙の投票率は、低い識字率にもかかわらずポスターなどで工夫され、73%と大変高い。スライドには不正や汚職が行われないよう真剣に作業する人々の姿や、まるでお祭りのような賑わいの選挙活動、

人々の生き生きとした様子などが映し出される。一般の人々が自分たちの国づくりについて高い問題意識を持ち、「二度と戦争はしたくない」と強く思っている証なのだろう。澤さんは「『紛争地5年以内再発論』はシエラレオネの現在にはあてはまらないのではないかと指摘さ



WHO・ユニセフなどによる『妊産婦と新生児の破傷風についての子どもの生存キャンペーン』が2007年4月16日～



25日、5月21日～30日、11月の3回にわたって行われている。不衛生な出産時の措置による破傷風が多いことから、妊婦への予防接種の実施、また子どもの予防接種についての取

り組みがある。澤さんからは「ユニセフが設置している分娩室でも、夜になると電気がないので安全な分娩が行えない」という問題も指摘され、キャンペーン以前の、ライフラインなどのシエラレオネが抱える問題の深さに、安全な国に住む私たちがいかに恵まれているかという事を考えさせられる。

参加者からの「日本の高校生に伝えたいことは?」という質問に、澤さんは「教育は受けられて当たり前ではないという事、本当に勉強したくてもできない子どもたちがいる国がある事を知り、何かをしたい気持ちを大切にしてほしい」「シエラレオネの人たちは読み書きがわからなくても政治のことはわかっている、すぐ簡単に手に入る情報を信用しないで自分の目で社会を見てほしい」と結ばれた。

ユニセフの取り組みと日本の子どもたちへ

シエラレオネでは現在、保健衛生省・

澤良世(さわなごよ)さんプロフィール

ユニセフ東京事務所広報官を長年(1985～2004)務め、定年退職後、東京大学大学院総合文化研究科修士課程に入学、現在博士課程に在籍。研究テーマは紛争後のシエラレオネにおける和解と平和構築。在任中は黒柳徹子さんの視察などに行き30以上の国や地域を訪問。



参加者感想(抜粋)

- 初めて参加したのですが、先生の写真やお話がとても生き生きとしたもので、シエラレオネが少し身近に感じられたように思います。人々の、今の状況を変えようとする姿勢が強く、選挙の仕組みもしっかりしている点が初めて知りました。
- 今日の選挙のこと、街の様子などは知らないことばかりでした。本や情報だけではわからないことがたくさんあります。ひとつの視点だけでなく色々な方面から知る事の大切さ、必要性を感じました。これからのシエラレオネを知っていきたいと思いました。
- アフリカの問題は貧困に尽きるのではないかなと思う。経済的に豊かになる(自立できる)ことができるように何かできないものではないでしょうか。
- 子ども達へのサポートを一市民としてどんな形でできるか知りたい。
- 現地ではわからないことを数々ありがとうございました。今後ユニセフへの協力をさらに...という気持ちになりました。



紛争で腕を失い、元の職業への復帰のためにミンを購入した仕立て屋さん

ダイヤモンド掘りの現場

看板: Say no to peh-peh dokta go na Ospitu (やぶ医者 まじない師 やいんちき業はやめて病院へ行こう)

選挙運動の様子

紛争中は敵対していた人たちが一緒に取り組む社会復帰・復興へのプロジェクトの様子

松葉杖サッカーの選手

せんたく上手...



掲載写真は講演会のスライドより(澤さん提供)。

ボランティアのハレさん夫妻が講師 「イラン入門」

神戸大学留学生のご主人のリザさんと来日したハレさんは、ボランティアとして兵庫県支部でお手伝いをしています。そこで、知る機会の少ないイランの生の話を聞きたい!という思いから、「ミニイラン学習会」が実現しました。



も披露してくれました。GAZというイランのお菓子(ヌガー)と手作りどら焼きでティータイム。参加者からは「イランの男性は家事を手伝いますか?」との質問も飛び出し、終始和やかな雰囲気での学習会でした。

学生を中心としたボランティアグループ・ユニズの本庄さん、成田さん2人による司会進行で、リザさんがイランの国旗、地理、歴史、文化、生活等を映像で説明。普段はスカート着用のハレさん、この日は四角い布をまとい美しいチャドル姿



今までイランは遠い国という印象でしたが、温かい笑顔のハレさん夫妻に会い確かな親近感を持って一日でした。

ユニセフの活動に参加して

インターンシップ生
柄谷 藍香さん
大阪大学大学院国際公共政策研究科博士前期課程



Q 大学ではどんな研究をしているんですか?
—アジアの国々において深刻化している債務児童労働による人権侵害の状況を改善・解決するための方策と実践には、まずその発生のメカニズムと現状を詳しく調べるのが重要だと思っています。特に、世界中で最も多くの児童労働人口をかかえているインドについて研究をしています。

に多様なものへと発展させているように感じました。

Q どのようにして兵庫県支部と出会ったのですか?
—この夏に子どもにかかわる組織でインターンシップをしたいと思っていました。日本ユニセフ協会兵庫県支部のホームページで、ボランティア募集とさまざまな学習会の開催をしり、早速支部にお電話させていただきました。

Q 今回のインターンシップの経験を今後どう活かしますか?
—これまで、募金をするにしても、ユニセフグッズを購入するにしても、どこか現実味がなく、子どもたちにどのような支援が行われているのかが不透明であると感じていました。今回のインターンシップを通じて、子どもたちへの支援がどのようなプロセスで、どのようなスピードでどのような人々によって行われるのかという概観を掴むことができました。

Q UNICEFへのイメージはインターンをする前と後で変化しましたか?

今回、職員の方の働く様子を目の当たりにして、何事も想定通りにはいかないこと、同じことは起こらないからこそ、柔軟であることの必要性を感じました。

Q 将来の夢は?
—私は、子どもの権利を最優先事項として捉え、将来国際機関において厳しい社会状況・経済状況下におかれ、児童労働を強いられている世界中の子どもたちに初等教育を提供するための政策立案・実践に関わる職業に携わりたいと考えています。

加藤直邦さん講演会を開催 8月25日(土) イーグレひめじ
「自然と動物、人間のための平和な地球」



「ユニセフ・ひめじオーブの会」の企画により、講師に加藤直邦さんを迎え、姫路市男女共同参画市民企画支援事業講座を開催しました。

加藤さんは、ケニアマサイマラのムバタサファリクラブでのプロガイドの経験から、アフリカの現状や厳しい大自然の中で生きる動物たち、マサイ族の生活など、スライドを交えながら紹介しました。

話のなかで一番関心が集まったのは、マサイ族の暮らしぶりでした。水くみ、薪拾い、ミルク搾りなど生活のほとんどを女性が担っているのに対し、牛の世話のみが男性の仕事。参加者はこの事実

に疑問を持ちながら、不平不満を言わず働き続けるマサイの女性に感心していました。また食生活については、牛の血とミルクを混ぜたものが彼らの栄養源であることなどに驚き、文化や生活の違いを目のあたりにしました。

加藤さんは、現地でマサイの生活を体験した高校生の「言葉や文化が違って中々良くなりたいという気持ちがあれば友達になれる」という感想文も紹介し「私たちが快適だと思っている生活が彼らの望んでいる幸せではなく、厳しい自然の中でマサイの伝統と文化に誇りを持って生きている彼らの姿を知ってほしい」と語りました。

現在学校でユニセフについて学習している中学生は、「アフリカでは動物も人間も一生懸命生きていることに感動した。機会があれば行ってみたい」と感想を話しました。

この講演会は、アフリカを身近に感じる良い機会として、姫路でユニセフの活動を広げていくための新たなステップとなりました。



加藤直邦さんの著書紹介『僕は見習いナチュラリスト アフリカ野生王国編』(情報センター出版局)

研修・交流会に参加

8月30日・31日 ユニセフハウスほか

ユニセフの活動をよりたくさんの人に伝えるために、学習会にボランティアも参加しています。8月30日・31日はユニセフハウスでの地域組織学習講師研修会へ、9月6日・7日にはコープイン京都での生協を中心としたリーダー研修会へ参加しました。学習会は、ユニセフ現地報告やワークショップ、活動の紹介など、もりだくさんの内容でした。兵庫県支部からも3名が参加。これからの活動に活用していきます。

「地球のステージ3 ~国境なき大地」を共催

8月18日(土)生活文化センター・ホール

「いつも神戸でのステージはあたたかい」桑山さんはそうおっしゃいます。



今年で3回目を迎えた「地球のステージ3 ~国境なき大地」には約300人が参加。今回は温暖化するケニア、スマトラ沖地震で津波に襲われたスリランカ、ソマリアでの紛争、アパルトヘイト後の南アフリカなど、現地でたくましく生きている人びとから



たくさんのメッセージが届けられました。

そして、だれにも訪れる「死」、自己改革を通しての「ネットワーク」...。私たちがさまざまな現実と、どんな風に向かい受け入れ、どう繋がっていくのかなど、一人ひとりの内面を探る旅となりました。

来年の「ステージ4 ~果てなき回帰」が楽しみです！

コープこうべ平和のつどいに参加

7月22日(土) 第1地区・第2地区・第5地区

コープこうべの各地区で取り組んでいる「平和のつどい」に参加し、ユニセフ製品の頒布の他、第2地区ではタンザニアの、第5地区ではラオスのスタディツアーの報告を行い、現地の状況やユニセフの活動について、広く組合員の皆さんに知っていただく機会となりました。



写真展「unicefと世界の子もたち」に協力

7月21日～8月5日 三田国際交流プラザ



ユニセフの支援活動の様子や世界の子もたちの写真パネル展が三田国際交流協会の主催で開催されました。夏休み中の子も対象の資料やパンフレットも用意されました。

ハートフルコンサート「青い地球への讃歌」を後援

9月22日(土) 県立芸術文化センター

ピアノ五重奏をバックに税所美智子さんが高らかに歌いあげたオリジナル曲「妖精の四季」に会場が酔いしれました。参加者は4000人を超え、コンサート収益金がユニセフ兵庫支部などの3団体に募金されました。また、会場では、ユニセフ製品の頒布を行い、多くのご協力をいただくことが出来ました。

募金をいただきました ありがとうございます

神戸市職員労働組合
いつもユニセフ活動へ大きな支援をいただいている神戸市職員労働組合より、今回はペルー地震に対して緊急募金をいただきました。

丹波市・日韓少年サッカー交流マクドナルドKASUGAカップ2007
8月12日に丹波市のグリーンベル青垣で行われ、収益金の中から募金をいただきました。



募金や会員など、あなたができる方法で ご協力ください

ユニセフ募金 ~ご家庭で学校で職場で~

いただきました募金は、日本ユニセフ協会からユニセフ本部、そしてユニセフ現地事務所を通じて世界の子もたちの支援活動に使われます。

郵便振替でお願いします
口座番号：00190-5-31000
加入者名：(財)日本ユニセフ協会
通信欄に「K1-280兵庫」とご記入ください。

会員って

ユニセフ協力活動を行なう日本ユニセフ協会を、会員によって支援します。

- 一般会員...個人ならどなたでも 1口 5,000円
 - 学生会員...18歳以上の学生 1口 2,000円
 - 団体会員...団体、法人、企業 1口 100,000円
- 申込み方法についてはお問い合わせください。

緊急募金のお願ひ

- ニカラグア・ハリケーン緊急募金**
郵便振替：00190-5-31000
通信欄に「ニカラグア K1-280兵庫」と記入
送金手数料は免除されます。
 - ペルー地震緊急募金**
郵便振替：00190-5-31000
通信欄に「ペルー地震 K1-280兵庫」と記入
送金手数料は免除されます。
 - スーダン・ダルフル緊急募金**
郵便振替：00190-5-31000
通信欄に「スーダン K1-280兵庫」と記入
送金手数料は免除されます。
 - アフリカ緊急募金**
郵便振替：00190-5-31000
通信欄に「アフリカ K1-280兵庫」と記入
- 【共通】口座名義：財団法人日本ユニセフ協会
募金は郵便局指定の振込用紙をご利用の上、上記口座までお振込みください。
ユニセフへの募金は寄付金控除の対象となります。

ボランティア募集

世界の子もたちのこと知りたいと思いませんか？学習会、イベント参加、カード頒布、事務局運営、広報など、関わり方はいろいろあります。若者たち(高校生～大学生)のグループUNIESも参加しています。活動を通じていろいろな人たちとの出会いが広がります。一度のぞいてみてください。

- 学習会
- イベント参加
- カード頒布
- 事務局運営
- 広報

『ユニセフ・カードとギフト 秋・冬号2007』

カード・グッズの購入をご希望の方は、お問い合わせください。
☎078-435-1605



「連絡帳が心をつなぐ」

していますが、全員で顔を合わせる事はほとんどありません。代わりに連絡ノートをつくって来館者の様子、ユニセフ製品の頒布状況、時には、趣味の事なども書いて、交流や情報交換を行っています。今ではこのノートを読むのが楽しみのひとつです。

7月21日、西宮市の主催で開かれた「めだかの学校」では、私たちも参加してクイズやパズル、ユニセフの学習会やグッズ頒布をして、ユニセフの啓蒙活動をしました。この日は、多くの小学生が訪れ一日中にぎわって、

県支部ボランティア 石本 暉子

私たちボランティアも楽しい時間を過ごしました。

「ユニセフマークの葉っぱは何でしょう？」という質問に「チューリップ」と答えた女の子も、来年はきっと「オーリーブ」と言ってくれることを信じて、今後もこの活動をチームのみんなと楽しんでいきたいと思っています。

西宮ユニセフコーナー
活動日 毎週火・水・金 12時～16時
ところ 西宮市甲風園1丁目8-1 AMIS1階



学習チームはおおいそがし！

訪問日	訪問先	対象	人数
4月20日	神戸市立桜の宮中学校	中学生	62人
5月19日	岡山県支部総会	大人	30人
5月29日	山南町区久下小学校	小6年	50人
7月1日	ボーイスカウト神戸第6団	幼・小・中学生	約50人
7月7日	広島県支部学習会	大人	40人
7月5日	高砂市立中筋小学校	小5・6年	20人
7月10日	神戸市北区7校合同ユニセフ募金活動事前学習会	高校生・他	25人
7月11日	C有野コープ委員会	大人	120人
7月22日	コープこうべ第2地区平和のつどい	大人	150人
7月22日	コープこうべ第5地区平和のつどい	大人	100人
8月7日	星和台学童保育所	小1～4年他	9人
9月26日	阪神友愛食品	大人	14人

学校や生協などで、ユニセフの活動紹介や世界中の支援を必要としている子どもたちの状況をお話させていただく学習会に学習チームのメンバーが講師として出向いています。こういった学習会での講師活動は、下半期にかけてますます忙しくなりそうです。

毎月7日はカード・グッズの頒布日！ ところ：コープこうべ生活文化センター1階ロビー

コープこうべ生活文化センター25周年記念講演会 「輝いて生きる」

だれもが輝いて生きてゆきたいと願っていると思いますが、一人ひとりの輝き方も、生き方もちがいます。しかし、毎日の生活の中で自分なりの納得のできる生き方こそがその人を輝かせ、優しくさせるのではないのでしょうか。その納得する生き方を一緒に探してみましょ。



講師 高木慶子さん
(兵庫・生と死を考える会会長) 入場無料 要予約 先着順

高木慶子(たかきよしこ)さんプロフィール
「いのちの尊さと大切さ」や「生と死の問題」「子育てに関する問題点」など幅広い分野で全国的にテレビや講演会などで活躍。聖トマス(旧英知)大学客員教授、生と死を考える会・全国協議会会長、兵庫・生と死を考える会会長、日本ユニセフ協会兵庫県支部評議員。

とき 11月17日(土)13:30~15:00

ところ コープこうべ生活文化センター2階 ホール
主催 コープこうべ生活文化センター
後援 日本ユニセフ協会兵庫県支部

講演会 「南アフリカから学ぶ」 ~『虹の国』に生きる人々とその文化

南アフリカ共和国は、アパルトヘイト廃止後、虹の国に象徴される多文化共生社会を目指して歩み始めて10数年…今も経済格差などの課題と闘っている人々から学んだことを、音楽・写真をまじえながらお話しいただきます。



講師 佐竹純子さん
(プール学院大学短期大学部准教授) 入場無料 要予約

佐竹純子(さたけじゆんこ)さんプロフィール
プール学院大学短期大学部教員。ジェンダー論、国際理解などを担当。80年代、日本反アパルトヘイト女性委員会を経て、現在、関西・南部アフリカネットワーク世話人。翻訳にミリアム・トラデー著『アマンドラ ソウェト蜂起の物語』(現代企画室)。

とき 11月24日(土)13:30~15:00

ところ コープこうべ生活文化センター5階 会議室

ユニセフ Hand in Hand

とき 12月23日(祝・日)11:00~13:00(予定)

ところ 宝塚、伊丹、西宮北口、住吉、三宮、元町、名谷、垂水、姫路(予定)



あなたも『ハンド・イン・ハンド』に参加しませんか

ユニセフでは、毎年12月23日を『ハンド・イン・ハンド』(街頭募金活動の日)とし、広くみなさんに募金のお願いをしています。1979年の国際児童年に始まり今年で29回目を迎える恒例のキャンペーンです。当日ボランティアとしてご協力いただける方を募集しています。お気軽にお問い合わせください。

テーマ:「子どもの未来は栄養が握っている」
当日は現地集合、解散になります。
詳細につきましては、お申込みいただいた方に後日お知らせいたします。参加ご希望の方はご連絡ください。

あいめっせフェスティバル2007

ユニセフ・ひめじオリ・ブの会のみなさんが参加します。

とき :11月17日(土)・18日(日)10:00~16:00
ところ 姫路市男女共同参画推進センター「あいめっせ」(イーグレ姫路3階)
参加費 無料

ユニセフパネル展

「HIV/エイズの危機と子どもたち」

とき :11月28日(水)~12月1日(土)
9:00~17:00(11月28日は12:00~)
ところ 加古川市民ギャラリー(JR加古川駅構内)
入場料 無料
この写真展では、アジアのHIV/エイズの状況を撮影しつづけている写真家後藤勝氏のカンボジアにおける写真を中心に、HIV/エイズがもたらしている被害の様子、危険にさらされている子どもたちの現状、HIV/エイズ解決に向けて求められるユニセフの取り組み・HIV/エイズ教材などを紹介します。

生活文化センターまつり

とき :11月17日(土)・18日(日)10:00~

ところ コープこうべ生活文化センター

コープ3地区ボランティア交流会

とき :12月1日(土)10:30~14:30

ところ コープこうべ生活文化センター

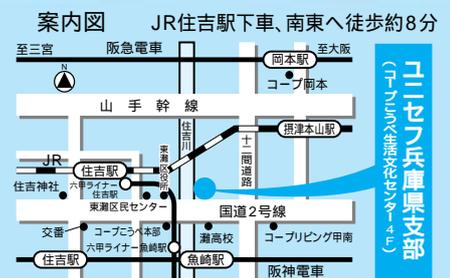
あ と が き

兵庫県支部ホームページ <http://www.office-bit.com/unicef-hyogo>

スーダン紛争のあとは洪水のニュース。世界中にはライフラインも確かでない国がなんと多いことでしょう。圧倒的な自然の前には人智の限界、自然への畏敬の念も失ってはいけないと感じます。けれど、手と手を繋ぎ、未来を変える事が出来るのもまた人間。未来を担う子ども達に、社会は自分達がつくっていくもの、自分達の手で変える事ができるものと信じてほしいと願います。(K)

Wish Vol.22号(2007年秋) ユニセフ兵庫ニュース

2007年(平成19年)11月発行(季刊)
発行:(財)日本ユニセフ協会 兵庫県支部
〒658-0081 神戸市東灘区田中町5-3-18
コープこうべ生活文化センター4F
TEL 078-435-1605 FAX 078-451-9830
(平日の10時~16時)



ユニセフ兵庫支部
〒658-0081